

[成果情報名] 最上川のアユ資源構成

[要 約] 天然遡上の良好な年には、最上川の上流域のアユ漁場においても、多くの天然遡上アユが加入していることが明らかになった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] アユ、最上川、資源構成

---

#### [背景・ねらい]

本県では、天然遡上アユ資源の回復に向けて平成 16 年から全県的なアユの禁漁措置が実施されており、その効果の検証、より効率的な措置内容の検討が重要課題となっている。

本調査では、その基礎資料として、天然遡上及び人工アユの割合を調査し、本県の主要漁場である最上川のアユ資源構成を明らかにした。

#### [成果の内容・特徴]

1. 最上川の上流域として置賜白川及び白鷹町地内の本流、中流域として月布川、寒河江川、丹生川、小国川及び大江町地内の本流、下流域として新庄市及び庄内町地内の本流の計 9 箇所(図 1) を選定し、築、アユ止又は投網によりアユを採捕した。
2. 採捕したアユは、計量形質を測定後、側線上部横列鱗数による判別法(図 2 及び「平成 11 年新しい技術の試験研究成果」に報告した方法)を適用し、天然遡上及び人工アユの割合を求めた。
3. 天然遡上アユの割合は上流域で 12~53%、中流域で 43~77%、下流域で 67~72%であった(表 1)。
4. また、鼠ヶ関川、三瀬川の 2 河川で遡上状況調査から、当年の天然遡上アユの資源水準は、比較的良好なものと推察された(図 3)。
5. これらのことから、少なくとも天然遡上の良好な年には、最上川の上流域のアユ漁場においても、多くの天然遡上アユが加入していることが明らかになった。

#### [成果の活用面・留意点]

1. アユ禁漁措置に関する基礎資料として活用される。
2. 本調査は来年度以降も行い、知見を蓄積する必要がある。

[具体的なデータ]

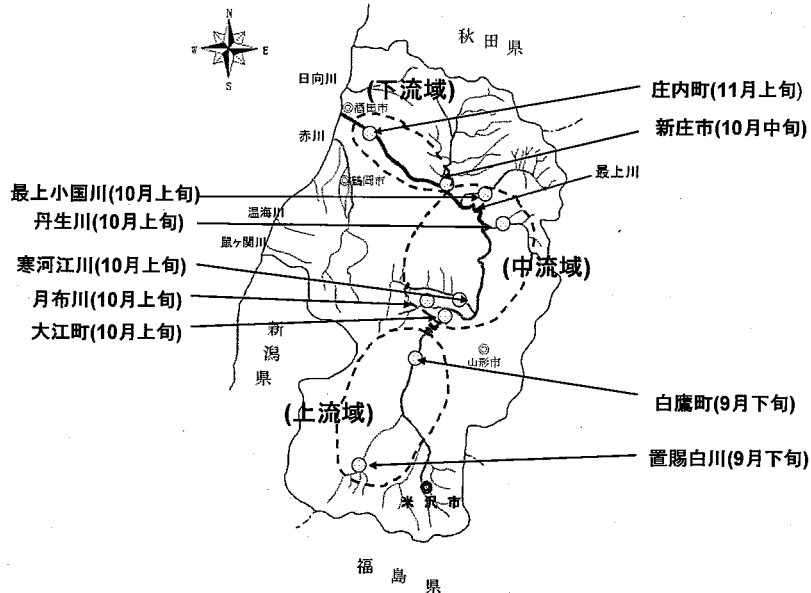


図1 最上川におけるアユの採捕場所・時期

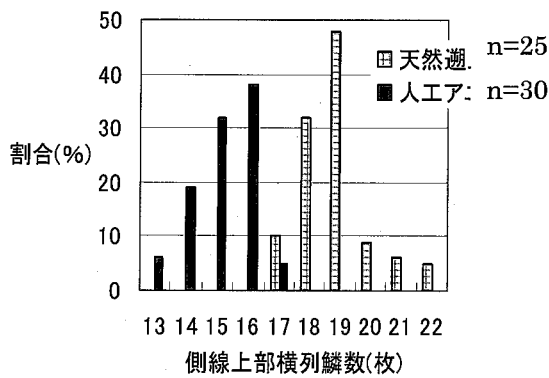


図2 天然遡上及び人工アユの鱗数組成

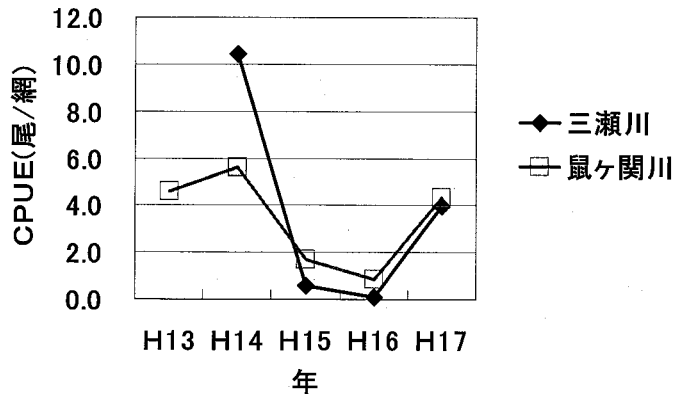


図3 県内アユの遡上状況

表1 最上川における天然遡上アユ及び人工アユの採捕割合

区分	河川	調査尾数	天然遡上魚の割合	標準体長(cm)	魚体重(g)
下流	本流(庄内町)	60	72%	14.4±1.7	53.9±18.2
	本流(新庄市)	60	67%	15.0±1.4	58.2±16.6
中流	最上小国川(舟形町)	65	60%	12.9±1.6	37.7±11.6
	丹生川(尾花沢町)	61	43%	15.7±1.5	66.6±21.0
	寒河江川(寒河江市)	60	68%	15.2±1.2	62.2±15.1
	月布川(大江町)	60	52%	15.4±1.6	60.9±19.7
	本流(大江町)	62	77%	16.9±1.7	85.9±25.6
上流	本流(白鷹町)	62	53%	17.0±1.3	104.8±21.1
	置賜白川(飯豊町)	60	12%	15.7±0.8	65.3±15.0

[その他]

標準体長・体重は平均値±標準偏差で示した。

研究課題名：アユ適正増殖手法の開発

予算区分：受託

研究期間：平成17年度（平成14～18年）

研究担当者：高澤 俊秀

発表論文等：なし